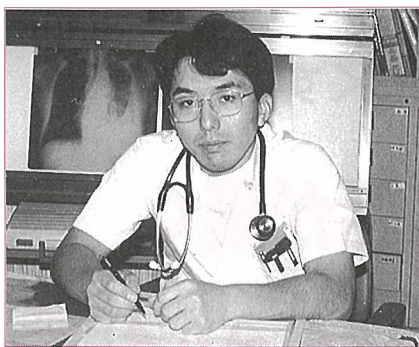


健康への メッセージ



東陽病院 宇野史洋医師

光町のみなさん、こんにちは。今年も住民検診の季節がやって来ました。今回は胃集団検診について、この場をお借りして一つのお願いをしたいと思います。胃集団検診の際には、まず最初に検診車の中などでバリウムによる造影検査（一次検診）が行われます。これは間接造影といって、短時間に多くの人数を検査できますが、写真を7、8枚しか撮影しないので病院で行う胃造影検査（直接造影）より精度が落ちます。この一次検診の結果、異常が指摘されると精密検査を病院で受けて頂くことになります。

現在東陽病院では、一次検診で精密検査が必要といわれた人たちが全員に、まずバリウムによる造影検査（二次検診）を行っています。これは直接造影といって、横になったり下向きになったりして10枚以上写真を取りますから、一次検診の間接造影よりも精度が良く、細かい病変も診断できます。しかしこ

バリウムが先か？ 胃カメラが先か？

シリーズ⑤



の直接造影で終わりににはならない人もいます。そうです。胃カメラです。直接造影で異常がある、さらに胃カメラで直接胃の中を診て、必要があれば組織を採取して、最終的に胃の病変を診断する

希望者に対しては、東陽病院でも、最初から胃カメラを受けて頂けるようにしたいと思います。（勿論、バリウムによる造影検査を希望する人には今までどおりに行います）胃癌も早く見つければ直せる時代です。そのためにも、胃カメラを一人でも多くの人に嫌がらずに受けて頂きたいです。胃カメラの場合、血液検査と予約のため、別の日に一度来院して頂くなくてはなりません。住民のみなさんのご理解をお願いいたします。ご質問がある方は、病院または役場までどうぞ。

ことになります。以上のように、現在は多い人では3回も検査を受けて頂いているわけですが、いつも胃カメラにまで回ってこられる人が結構多いように見受けられます。例えば、十二指腸潰瘍の瘢痕や胃のポリープがある人などは、毎回異常を指摘されて胃カメラまで検査を受けることになるのです。こういった人の場合、病院で行うバリウムによる直接造影を省略して、一次検診の次にすぐ胃カメラを行った方が良いのではないかと考えられます。実際、旭市を含め全国的に、病院での精密検査は最初から胃カメラを行う地域が増えていきます。

1月号にも書きましたが、バリウムによる造影検査では、胃粘膜の色の変化や浅い凹凸変化を診断しにくく、癌かどうかを調べる組織採取もできません。また、胃カメラの方が早期胃癌の診断率が高いといわれています。

健診内容

・住民検診（15歳以上）→ 胸部レントゲン

・基本健康診査（40歳以上）→ 問診・血圧・身長体重測定・診察・保健指導

血液検査
 ・肝機能検査（GOT・GPT・γ-GTP）
 ・貧血検査 ・総コレステロール
 ・HDLコレステロール
 ・中性脂肪 ・動脈硬化指数
 ・腎機能検査（クレアチニン）

※必要な方に心電図・眼底・血糖検査

・肺がん検診（40歳以上）→ タバコを吸う本数の多い方・痰の出る方 喀痰検査（3日間の痰を取って検査）

～この人紹介～

40歳からの健康づくり



伊藤和子さん（橋場）

伊藤さんは40歳の時、役場からきた封書を精密検査の通知だと思い、不安気にあけたところ、40歳になったので成人病の健診を受けましょうという内容だったので安心し、それ以来約10年健診を受けています。初めて受けた健診で、正常だと思っていた血圧が、高血圧とわかり、以後、受診し、現在も月1回受診しながら治療を続けています。

それまで全く自覚症状がなかったそうです。

本人からひとこと

〇症状がないと病院に行こうとはなかなか思えませんが、健診なら半日ですみ、年1回の検査なので受けやすいですね。

〇基本健診では、血液検査等の結果表が個人に送られてくるので、よくわかります。異常がないのはわかっていても、データーをみることで納得できました。

〇結果をみて、食事など生活面で気をつけることができました。40代から受けていてよかった、役立ったと思います。